

公開実用 昭和63- 66479

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63- 66479

⑬ Int.Cl.⁴

A 01 K 97/00
97/06

識別記号

庁内整理番号

L-7416-2B
7416-2B

⑭ 公開 昭和63年(1988)5月2日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 釣針を止める道具

⑯ 実 願 昭61-160547

⑰ 出 願 昭61(1986)10月20日

⑱ 考 案 者 河 野 義 照 千葉県千葉市仁戸名町109-20

⑲ 出 願 人 河 野 義 照 千葉県千葉市仁戸名町109-20

⑳ 代 理 人 弁理士 加藤 康雄

明 細 書

1. 考案の名称 釣針を止める道具

2. 実用新案登録請求の範囲

1 部分を粘質物体の帯体とし、他部分を柔軟な円柱体として、併設させた構造を特徴とする釣針のカラミを防ぐ釣道具

3. 本考案の詳細な説明



本考案は、粘質物体および円柱体物体を帯状に配列した釣針とサルカンを固定する釣道具に関するものである。

従来は、アコウダイやキンメダイ釣の場合のように1本の幹糸から多数の釣針を同時に使用するため、船端に釣針を数十本並べていたが、風や波により釣針やサルカンが飛ばされたり、からんでしまい仕かけを海中に投入するのが困難であった。これに対する磁石やスプリング式のものがあるが、いずれも幹糸やハリスが揺れるとサルカンがからんでしまう欠点があった。

本考案は、上記の欠点をなくすため考案されたもので粘質物体と円柱体物体を帯状に配置し

1072

粘質物体に釣針の一部分を挿入し円柱体物体の円柱体突起物の間にハリスおよびサルカンを通し、仕かけのからみを防止するものである。

本考案を実施例に基き図面に従って説明すると、第1図は、本考案の斜視図を示す。1は粘質物体を細長い箱に帯状に詰めたもので、2は弾力性に富む材料で作られた円柱体物体が帯状に植立された物体で柔軟な底板3に立設され1と併列に設けられている。4は箱の両端で留め金具5により船端6に止める。このような釣道具を第2図に示すように釣船の船端6に留め金具5により取り付け釣針7の一部分を粘質物体1に挿入し、ハリス8を円柱体物体2の間をぬって通す。サルカン9も円柱体物体2の間に置くと、ハリス8、サルカン9は円柱体物体2の摩擦によって弛むことがないため、多数の釣針7を順次にセットすれば釣針7とハリス8、サルカン9は互にからみ合うことがなく、おもり10から海中に投げこめば順序よく海中に仕かけが沈み目的を達することができる。

本釣道具を使用すると、十数本にわたる釣針を有する仕かけを使用する場合、風や船の揺れによる仕かけのからみに悩まされることがなくなり絶大の効果がある。また、底板3は粘質物体の箱1を巻込んで収納できるようにしてあるため携行にも便利である。

4. 図面の簡単な説明

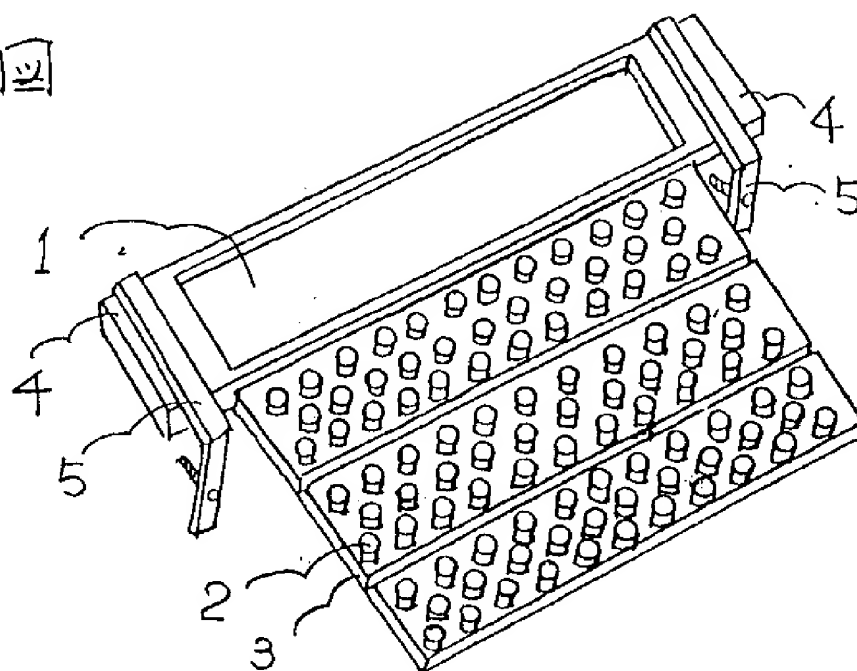
第1図は、本考案の斜視図である。

第2図は、本考案の使用した場合の説明図である。

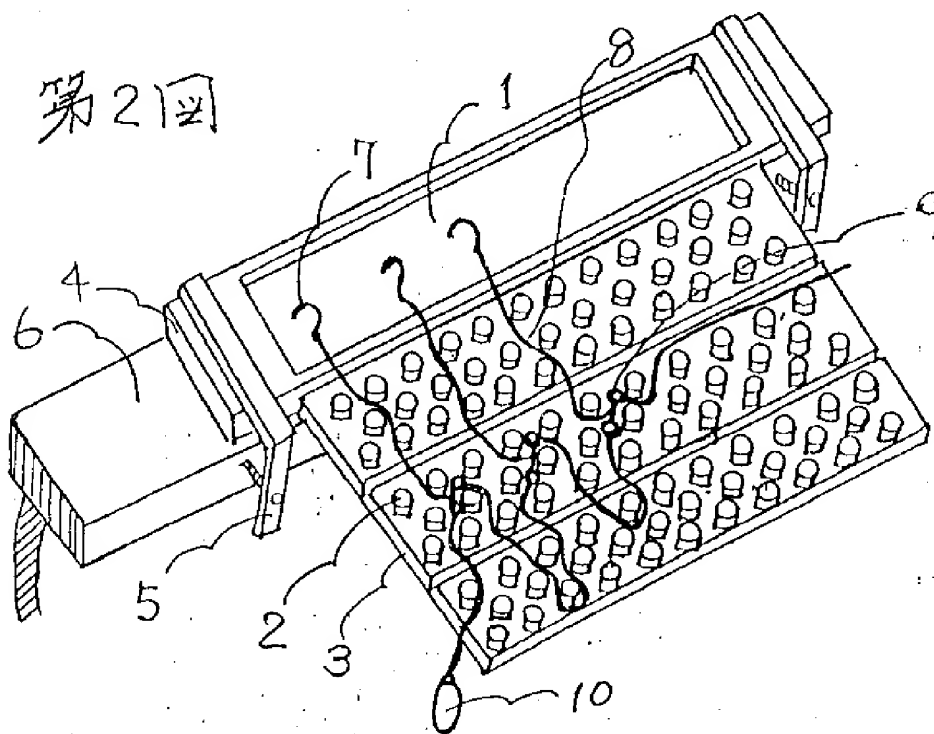
- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1 … 粘質物体 | 2 … 円柱体物体 | 3 … 底板 |
| 4 … 両端 | 5 … 留め金具 | 6 … 船端 |
| 7 … 釣針 | 8 … ハリス | 9 … サルカン |
| 10 … おもり | | |

実用新案登録出願人 河野義照

第1図



第2図



実用新案登録出願人 河野義照

1075

実開 63-66479